

思いやりと優しさのある、良質で安全な医療を提供いたします。

HOKUTO TIMES

社会医療法人北斗会 大洲中央病院広報誌「ホクトタイムス」

No.

81

2025/4



嚥下機能検査の結果に基づき、
嚥下の状態を客観的に評価し、リハビリテーションを進めています



Zoom Up!
OzuCentral Hospital

病院
案内

【嚥下機能検査】

当院は、特に脳血管疾患の患者さんを多く受け入れており、麻痺や構音障害、嚥下障害などの後遺症のある患者さんが多くいらっしゃいます。このような脳血管疾患や運動器疾患の入院患者さんや外来患者さんを対象に、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が連携しながらリハビリテーション（以下、リハビリ）を提供しています。

リハビリテーションにおける専門職の主な役割は、以下の通りです。

理学療法士は、「立つ」「歩く」「座る」「寝る」などの基本的動作能力の回復・

維持を目的に、リハビリを行います。作業療法士は、「食事」「洗顔」「料理」「字を書く」などの応用的動作能力や、就学・就労といった社会的適応能力を維持・向上させ、「その人らしい生活」の獲得を支援します。言語聴覚士は、「話す」「聞く」「食べる」などの機能に障害がある方を対象に、言語・嚥下機能の回復を専門的に支援します。

今号では、言語聴覚士にスポットを当て、病院における役割や業務内容についてご紹介します。

言語聴覚士とは

言語聴覚士は、「話す」「聞く」「食べる」という基本的な機能の回復を目的に、リハビリを行う専門職です。脳血管疾患の後遺症として、言語や嚥下機能に障害が生じることがあり、主に以下のような症状に対するリハビリを担当しています。

- ・失語症（言葉の理解や表出の障害）
- ・構音障害（発音の障害）
- ・嚥下障害（飲み込みの障害）
- ・高次脳機能障害（記憶・注意・判断力などの認知機能の障害）

カードを使って、言葉の理解や発語を促すリハビリテーションを行います



Zoom Up!
OozuchuoHospital



【言語リハビリテーション】

それぞれの障害に対する具体的なリハビリ内容や、多職種との連携についてご紹介します。

言語リハビリ

(話す・理解する機能の回復)

＜失語症とは＞

失語症とは、「話す」「聞く」「読む」「書く」「計算する」などの言語機能に障害が生じ、うまくコミュニケーションが図れなくなる状態です。リハビリでは、検査を実施してこれらの機能のどこが低下しているかを評価した上で、適切な訓練を行います。多くの場合、特に「話す」「書く」などの訓練を重点的に行い、他者とのコミュニケーション能力の向上を目指します。必要に応じてスマートフォンなどの機器を活用した訓練を取り入れることもあります。

＜構音障害とは＞

構音障害とは、舌や口唇など発音に関わる器官や動きに問題が生じ、言葉が不明瞭になる状態です。舌や口唇などの運

動機能を評価し、適切な訓練を行うことで発音の改善を図ります。できるだけ明瞭に話せるように訓練し、患者さんの話す意欲を引き出すことを目指しています。

嚥下リハビリ (飲み込みの回復)

＜嚥下障害とは＞

嚥下(えんげ)とは、食べ物を口に入れる→咀嚼する→飲み込む→胃へ送り込むという一連の動作を指し、これがうまく出来ない状態を「嚥下障害」といいます。誤嚥(誤って飲み込み、気道に入ること)が生じると誤嚥性肺炎のリスクが高まり、食事の楽しみが制限されるだけでなく、健康にも大きな影響を及ぼします。言語聴覚士は、水分やゼリーなどを用いて嚥下機能の評価を行い、状態に応じて間接訓練(食べ物を使わずに行う訓練)と直接訓練(食べ物や水分を使った訓練)を実施し、嚥下機能の改善を図ります。食事の際に誤嚥しやすい患者さんには、適切な姿勢や食形態の調整を行い、安全に食べられ

るようにサポートします。また、口腔ケアを行うことで、誤嚥性肺炎を予防すると共に口腔内の環境の改善を図ります。



嚥下訓練食

＜当院での取り組み＞

当院では、愛媛大学医学部附属病院の耳鼻咽喉科医と連携し、月に1度、嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査を実施しています。これにより、患者さんの嚥下機能をより客観的に評価し、それぞれの状態に応じたリハビリを提供することが可能となります。また、看護師によるKTバランスチャート(嚥下状態や食事摂取量な

ど全14項目で食事・栄養状態を評価する指標)の包括的な評価を参考にし、管理栄養士と協力して適切な食事形態を選択するなど、多職種が連携しながら効果的な嚥下リハビリを進めています。



多職種ミーティング

高次脳機能リハビリ

<高次脳機能障害とは>

人間の脳には「記憶」「判断」「学習」などの高度な認知機能が備わっています。

これらの知的な機能を総称して高次脳機能といいます。高次脳機能障害とは、病気や事故などによる脳の損傷により、言語・思考・記憶・行為・学習・注意などの知的な機能に障害が起こった状態を言います。外見上からは分かりにくいので、「目に見えない障害」「隠れた障害」とも言われ、日常生活や社会生活に支障が生じることが少なくありません。

<主な症状>

- ・記憶障害（新しいことが覚えられない）
- ・注意障害（集中力の障害）
- ・半側空間無視（片側の視界を認識しにくい）
- ・失行・失認（動作や物の認識の障害）
- ・遂行機能障害（計画立てて実行する力の低下）

<リハビリの進め方>

リハビリでは、検査を実施して高次脳機能障害の特徴を捉え、日常生活や社会生活に出来るだけ支障が残らない状態を目指して、それぞれの患者さんの特徴

に応じた訓練を行います。必要に応じて、ご家族や職場への情報提供や、環境調整を行ったり、退院後に運転を希望される場合は、医師の指示を確認し、運転免許センターでの適性試験の案内を行ったりすることもあります。

言語聴覚士が関わる言語障害・嚥下障害・高次脳機能障害は、目に見えない障害も多く、患者さんが回復を実感しづらい場合があります。しかし、適切なりハビリを継続することで、症状が改善する可能性は十分にあります。

「話すこと」「聞くこと」「食べること」は、生きる上で欠かせない大切な機能です。私たち言語聴覚士は、患者さん一人ひとりの状態に応じたリハビリを行い、生活の質（QOL）の向上に貢献したいと考えています。今後も、患者さんの背景や退院後の生活を考慮したリハビリを提供し、病院や地域での役割を果たせるよう支援を続けてまいります。

菜の花の塩麻婆豆腐

■材料 2人分

豆腐.....300g	水.....200ml
菜の花.....100g	ごま油.....小さじ2
豚ひき肉.....80g	顆粒中華だしの素.....小さじ1
長ネギ.....30g	みりん.....小さじ1
乾燥しいたけ.....2枚	うすくちしょうゆ.....小さじ1
しょうが.....1/2片	食塩.....少々
にんにく.....1/4片	かたくり粉.....小さじ2
鷹の爪.....1本	ラー油.....適量

■作り方

- ①菜の花は固めにゆでて3cm幅に切る。豆腐はさいの目に切り水気を切る。
- ②長ネギ、しょうが、にんにくはみじん切りにする。乾燥しいたけは水でもどし5mm角に切る。
- ③フライパンにごま油を入れ、しょうが、にんにく、鷹の爪を香りが立つまで炒め、豚ひき肉を加えて炒める。
- ④豚ひき肉に火が通ったら、水、顆粒中華だしの素、みりん、しょうゆ、長ネギを加えてひと煮立ちさせ、豆腐を加えて煮る。
- ⑤もう一度煮立ったら菜の花を加えて、塩で味を調える。
- ⑥水溶き片栗粉でとろみをつけ、好みでラー油を加えてできあがり。

＼塩分を抑えたい方におすすめ！



からだに効く

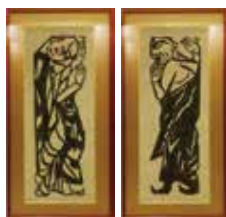
レシポ

Point!

豆板醤の代わりに鷹の爪やラー油を使うことで塩分を抑えることができます。減塩ながらも菜の花のほろ苦さがアクセントとなり満足感があります。

大洲中央病院栄養科

院内美術館



「釈迦十大弟子二菩薩
（須菩提、富樓那）」
棟方志功作

“世界のムナカタ”とならしめた全12点の大作

1Fエレベーター横にある版画は、全12点からなる棟方志功の代表作『釈迦十大弟子二菩薩』。今回ご紹介するのは「須菩提」と「富樓那」です。棟方の真骨頂である白と黒の絶対的対比で、二菩薩と釈迦の10人の高弟の姿を彫った力強い版画をぜひ一度ご覧ください。



棟方志功(むなかたしこう) / 1903年青森県生まれ / 1956年 ヴェネツィア・ビエンナーレ国際版画大賞受賞

次号は「棟方志功」作「釈迦十大弟子二菩薩(羅睺羅、阿難陀)」をご紹介します。

回復期リハビリテーション病棟協会 第45回研究大会in札幌に参加しました

2月21日～22日に開催された「回復期リハビリテーション病棟協会 第45回研究大会in札幌」に参加させて頂きました。以前から関心のあった学会の1つでしたが、COVID-19流行によりこれまで参加の機会がなく、今回初めての参加となりました。当日は降りきる雪の中、全国各地の回復期リハビリテーション病棟や関連の施設から多くの方が参加されており、活気のある大会となりました。会場では、多職種の方々が、日ごろの業務で感じている課題について、業種間連携、患者さんの生活支援、スタッフ教育など、さまざまな視点からの研究発表が行われていました。私は、特に病棟間連携や現在担当している新人教育に関する発表を中心に聴講しましたが、日頃の業務で生じる悩みや疑問に関する内容が多く、とても勉強になりました。今回の研究大会で得た知識や情報を今後の業務に活かし、スタッフと積極的に共有しながら、当院でリハビリを受けられる患者さんへの支援の質向上に繋げてまいります。



リハビリテーション科 作業療法士 神本 瞳

防災訓練に参加しました

3月3日に、消火用散水栓取り扱い訓練に参加しました。この訓練では、各部署から2名ずつ参加し、散水栓からホースを延ばして実際に散水作業を体験しました。説明だけでは分かりにくい事も、実際に体験する事でよく理解することができました。

また、3月10日には、防災訓練が行われました。この訓練は、災害発生時に適切で迅速な対応ができ、職員の災害意識や知識の向上に繋げる目的で、毎年行われています。今回は、全部署を対象に伊予灘沖を震源地としたM7震度6強の地震が発生した想定で訓練を行いました。介護医療院ほくとでは、2つの居室の窓ガラスが破損したという想定のもと、入所者3名をベッドと車椅子で避難誘導する訓練を行いました。入所者の安否や施設内の被災状況の確認など、スタッフ間で情報共有をすることで、スムーズに行うことができました。今後、想定される南海トラフ地震に備えて、実際に地震が発生した時に慌てずに行動できるよう、今回の訓練を活かしたいと思います。



介護医療院ほくと 介護福祉士 西隅 志津

愛媛マラソンに参加しました

2月9日に行われた第62回愛媛マラソンに参加しました。マラソンの挑戦は4回目で、愛媛マラソンを走るの今回は2回目でした。目標は「サブ3(3時間を切ること)」です。レース当日の気温は低く心配しましたが、体調は万全の状態での臨むことができました。結果は2時間58分55秒で、見事目標を達成しました。数年前には、自分がこんなタイムで走れるとは思っていませんでしたが、去年から「もしかしたら狙えるかも」と思い始め、1年間練習を続けました。その成果が実を結んだことを嬉しく思います。仲間や家族の応援も大きな力になりました。目標達成後の祝杯の味は、忘れられない美味しさでした。この経験を通じて、継続することの大切さを改めて実感することができました。仕事やこれからの人生にも活かしていきたいと思っています。



放射線科 科長 京河 雅史

外来診療医師一覧表

診療科目	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
内科	1診	上原 貴秀	休診日	大久保啓二	大久保啓二	上原 貴秀	大久保啓二
	2診	岡本 傳男		岡本 傳男	上原 貴秀	岡本 傳男	岡本 傳男
	3診	井上 明子		井上 明子	井上 明子	大久保啓二	非常勤
	4診	浅川 建史		清家 愛理	清家 愛理	非常勤	浅川 建史
外科	1診	森岡 徹	休診日	森岡 徹	森岡 徹	森岡 徹	森岡 徹
	2診	満谷 臨		満谷 臨	満谷 臨	満谷 臨	満谷 臨
整形外科	1診	山下 優嗣		山下 優嗣	山下 優嗣	愛大医師	山下 優嗣
	2診						非常勤
泌尿器科		清水 公治		清水 公治	清水 公治	清水 公治	
脳神経外科	1診(新患)	相原 寛		西原 潤	相原 寛	重川 誠二 柴垣 慶一	橋本 尚樹(第1) 重川 誠二(第3) 戸田 茂樹(第2-4)
	2診(再診)	後出 一郎		相原 寛	西原 潤		西原 潤
形成外科							森 秀樹 泉本真美子

受付時間 午前8時00分～午前11時30分

診療開始時間 午前9時00分～
担当医師は緊急手術等で変更する場合(休診になる場合)がありますので、事前にお問い合わせ下さい。
 整形外科は外来診療、救急対応、手術、入院管理等を常勤医師1名で行っています。状況により外来休診、予約患者のみの受付となる日があることを予めご了承下さい。

休診日 (5～8月)
 救急診療のみ… 5月3日(土)、5月4日(日)
 休診日… 火曜、水曜、5月5日(月)、7月21日(月)、8月11日(月)

お見舞い・面会時間 午後2時00分～午後5時00分
感染症予防のため変更になる可能性がありますので、事前にお問い合わせください。

外来診療休診のお知らせ 整形外科4月10日(休)・11日(金)
 形成外科4月26日(土)
常勤医師学会出張の為、休診になります。
 非常勤医師の来院がありませんので、休診になります。

常勤医師退職のお知らせ 脳神経外科 医師 相原 寛
令和7年5月末で退職になります。
 尚、6月以降の外来診療の日程については病院ホームページもしくはお電話にてご確認ください。

◎大洲・喜多地区の一週間の救急当番

- 金～日曜日…大洲中央病院 (日は18:00まで)
- 日曜日…市立八幡浜総合病院(18:00～)
- 月曜日…市立大洲病院
- 火曜日…市立大洲病院
- 水曜日…加戸病院(昼)、喜多医師会病院(夜)
- 木曜日…大洲記念病院(昼)、市立八幡浜総合病院(夜)

編集後記

今月から広報委員会の一員として参加させて頂くことになりました。

私は、去年スポーツ中に膝の怪我をして、2ヶ月程お休みを頂きました。その間、手術を2度経験し、身体が不自由になることの大変さを経験しました。荷重制限があったため、歩けるようになった頃には、今までどのように歩いていたのか、まっすぐ立つという感覚が分からなくなってしまい、とても困惑したのを覚えています。この入院を通してリハビリの重要性を痛感しました。現在はスポーツ復帰を目指して、週に1度リハビリに通い、筋力トレーニングを行っていますが、なかなか自宅では実行できずにいます。これから少しずつ気温が上がってきますが、暑さには負けず、健康のためにも、自宅でもトレーニングに励みたいと思います。皆さまも、どうぞお身体にお気を付けてお過ごし下さい。

発行/社会医療法人 北斗会 大洲中央病院

編集/広報委員会

- 東 研志(事務部長) / 京河 雅史(放射線科科長) / 竹岡 照枝(看護部長)
- 道休 由佳里(看護師長) / 村上 直也(リハビリテーション科) / 大西 修平(リハビリテーション科) / 藤岡 真里子(栄養科) / 井上 喜久子(栄養科) 黒田 都(医事課主任) / 宮尾 菜々美(医事課)



社会医療法人 北斗会
大洲中央病院

